

市教委は中学・高校生が宇野港周辺で外国人を接遇する「たまのステューデントガイド」の育成プログラムを作成する。2019年の瀬戸内国際芸術祭で案内役を担ってもらおうとともに、コミュニケーション

力や国際性、古里への愛着を育もうと企画。29日、準備会合を産業振興ビルで開き、玉野のPRポイント、進路への活用などについて中高生らの意見を聞いた。(近藤哲也)

中高生が外国人ガイド



「たまのステューデントガイド」育成プログラムの作成に向け、地域のPRポイントなどを話し合う中高生ら

会合はプログラムの素案づくりへ、おおまかなイメージをつくるのが目的。宇野港の大教育学部学生、米国人留学イベント「UNOICHI」生ら23人が参加。実行委が運営するインフォメーション

市教委 育成プログラム作成へ

地域PRポイント 準備会合 意見聞く

「たまのステューデントガイド」の育成プログラムは、地域のPRポイントなどを話し合う中高生ら

ンターの取り組みをベースに議論した。実行委の高校生は「近場の食堂やアート作品はガイド知識に不可欠」「季節ごとに楽しめるスポットを知っておくべきでは」と発言。他の参加者は「周辺の島を紹介する」「深山公園を案内しては」と発表した。留学生の「玉野の歴史や祭りは海外の人に新鮮に映る。伝統文化を紹介しよう」との意見には全員が納得した。

ガイド経験を進路にどう生かすかについては「小学校教諭になるのに役立つ程度の英語を学べれば」「英語で日常会話ができるようになり、旅館で働きたい」と話した。庄内中2年大賀裕樹さん(14)は「珍しくないと思う歴史や行事もPRポイントだと分かった。英語を生かせる仕事をしたい」と話した。

育成プログラムは18年度から運用する。外国語指導助手(ALT)や岡山大学生が講師となり、英語や地域活性化がテーマの講義を月1回程度予定。中高生を交えた会合は年度内にあと数回開く。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。